



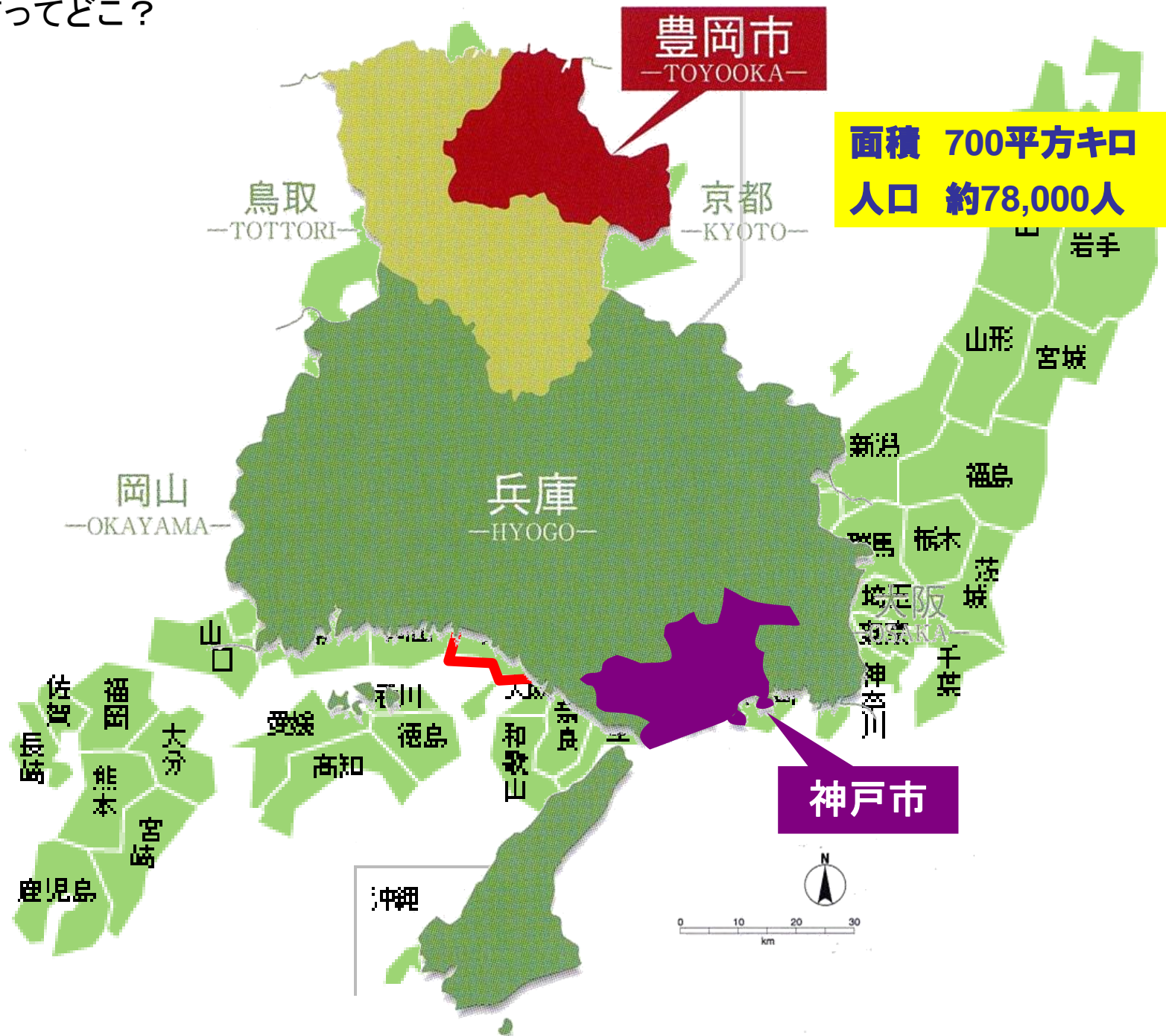
本と温泉 Books
and
Onsen

地産地読

～100年読み継がれる本をつくる～

NPO法人 本と温泉 理事 大将 伸介

豊岡市ってどこ？



城崎温泉

柳並木



そぞろ歩き



7つの外湯



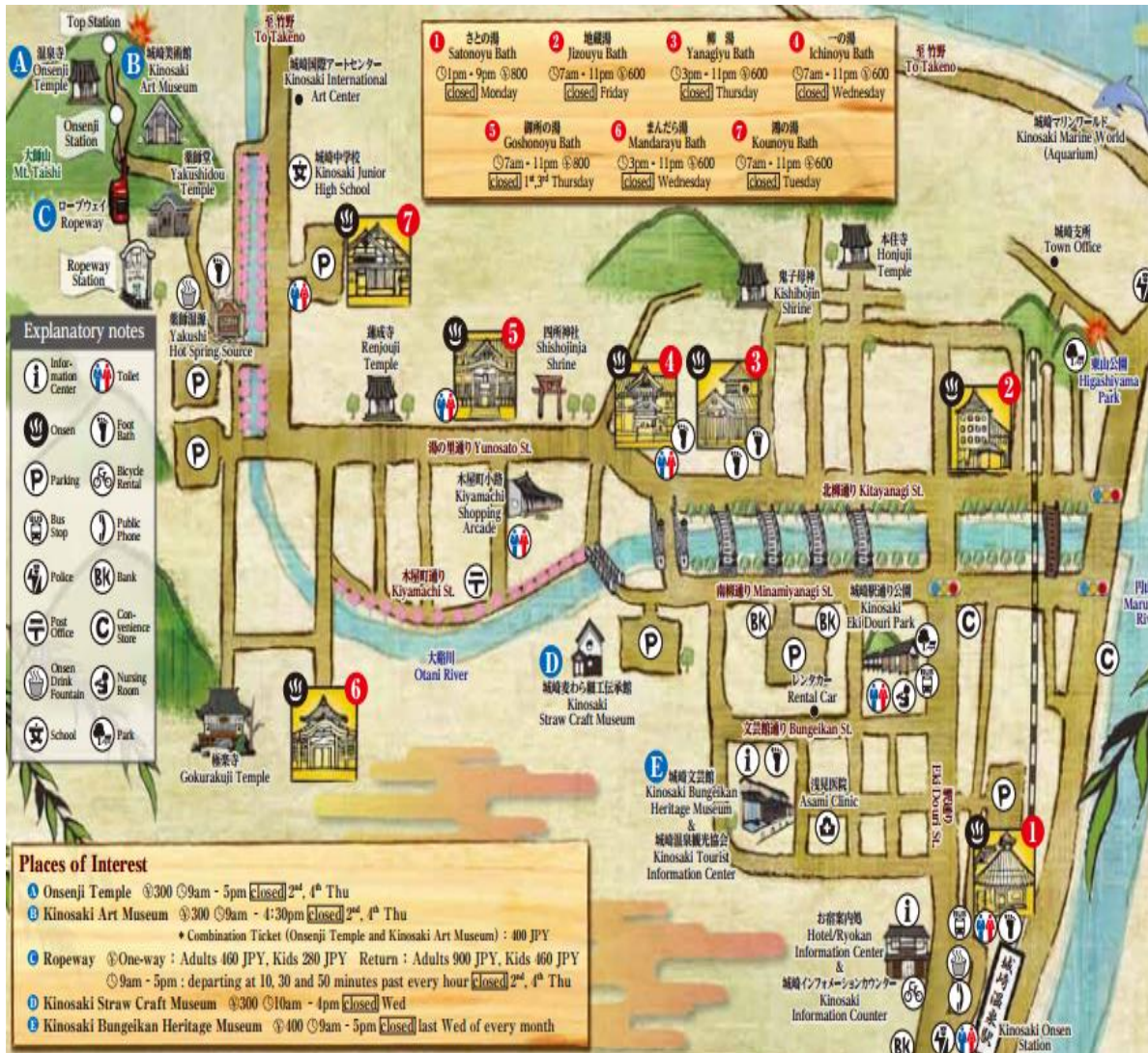
木造三階建



街全体が一つの宿

「駅が玄関、通りが廊下、旅館が客室、外湯が大浴場、商店が売店

城崎に住む者は、皆同じ旅館の従業員である。」



「外湯第一」内湯の大きさを旅館の規模に応じて制限するほか、

売店のないお宿が多く、チェックイン後は「さあ温泉街に出てまちを楽しんでください」とお客様を送りだす。

「共存共栄」の精神。

1 活動の背景

「本と温泉」は「城の崎にて」の作者志賀直哉が城崎を訪れてから100年後の2013年、城崎に点在する温泉旅館の若旦那衆が中心になって起ち上げたプロジェクトである。

城崎のまちから生まれたアイデアによったできた本をきっかけに、城崎へ人が来てくれることを目的とし、城崎でしか購入できない本を制作している。

2 事例のポイント

○城崎でしか買えない本をつくる

【2013年 第1弾】 志賀直哉作品の「城の崎にて」「注釈・城の崎にて」箱入二冊組

【2014年 第2弾】 万城目学作「城崎裁判」

【2016年 第3弾】 湊かなえ作「城崎へかえる」

【2020年 第4弾】 tupera tupera作「城崎ユノマトペ」



文学の魅力を今の城崎地域のチカラで引き出し、「城の崎にて」のように100年読み継がれる新しい本をつくることを目標としている。また、出版された本は城崎温泉街でのみ購入でき、購入先はお土産物店、旅館、酒屋、外湯など本取組みに共感してくれた地域の人たちが行っている。

また、豊岡市とも協力しながら、豊岡市立城崎文芸館での企画展示や、作者によるトークイベント等を開催し、観光客のみならず、地域の方々、作者の交流を通じて、大切な仲間づくりを継続して実施している。

本取組みにより、本をきっかけとした温泉街巡りを行うことが付加価値を生み、本があるから城崎温泉へ行くという誘客促進へと繋がっている。

3 その他

・当初よりまちぐるみの活動として設計

注文は各販売店から本と温泉へ入り、メンバーである旅館の主人や若旦那が直接各販売店に納品へ行く。そこでコミュニケーションが生まれることで、本を通じた住民同士の交流を図っている。

・10年間継続した経営努力

自主財源でほぼすべての経費を賄って維持することを10年間続けている。



今まで出版した4つの本



城崎温泉街の約50店舗で販売



歴代の作者を招いたトークイベントも開催

NPO法人 本と温泉 事例紹介



本と温泉
Books and Onsen

<本と温泉 出版作品>



第1弾

志賀直哉
『城の崎にて』
『注釈・城の崎にて』



第2弾

万城目学
書き下ろし小説
『城崎裁判』



第3弾

湊かなえ
書き下ろし小説
『城崎へかえる』



第4弾

tupera tupera
描き下ろし絵本
『城崎ユノマトペ』

<本と温泉 販売場所>

旅館



酒店



外湯



観光案内所



書店



お土産店



城崎文芸館



ロープウェイ乗り場



など、城崎温泉街の50ヶ所以上で出版本は販売されている。

湊かなえと 城崎温泉

二〇一七年九月九日—二〇一八年五月六日



<本と温泉 関連展示/イベント>

二〇一六年一〇月一八日—二〇一七年九月三日

万城目学と 城崎温泉

城崎文芸館 第1回企画展



「城崎裁判」
1万部突破記念
会期延長!

小説家は温泉まちで
何を見たのか?



kinosaki literature museum
the 4th exhibition
How to make books and onsen

城崎温泉にて地域限定公開

城崎文芸館 第4回企画展
「本と温泉」の作り方。

tupera tupera 絵本原画展

イペラ・イペラ
アイース

たのしい旅にごあんない!

2022.7.30 SAT ~ 9.25 SUN

観覧時間 9:30~17:00 (最終入場16:30)
料 金 一般600円、大学生400円、小学生200円
小学生以下は保護者同伴で観覧ください
休 日 毎週水曜日

豊岡市立美術館
伊崎美津紀美術館



<本と温泉 最近と今度の取組み>

■ 設立10周年記念企画

2023年7月 建築と温泉 開催

城崎温泉の個性的な宿を手掛けた著名建築家8人によるトークショーや建築家による建築物案内



■ 設立10周年記念企画

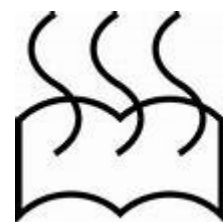
『新訳・城の崎にて(英訳版)※仮称』出版予定

写真 川内倫子 翻訳 テッド・グーセン

■ 本と温泉『第5弾』出版

作家 いしいしんじ

ご清聴ありがとうございました。



本と Books
温泉 and
Onsen

家賀再生プロジェクトの活動

【つるぎ町】
家賀集落

◆ けかしゅうらく



家賀再生プロジェクト代表 枋谷京子

つるぎ町の位置



つるぎ町ってどこ？

<美馬郡つるぎ町の位置>



美馬郡つるぎ町の家賀集落の位置



★家賀集落の説明①

剣山系で最大規模を誇る標高100m～600mに位置する傾斜地集落



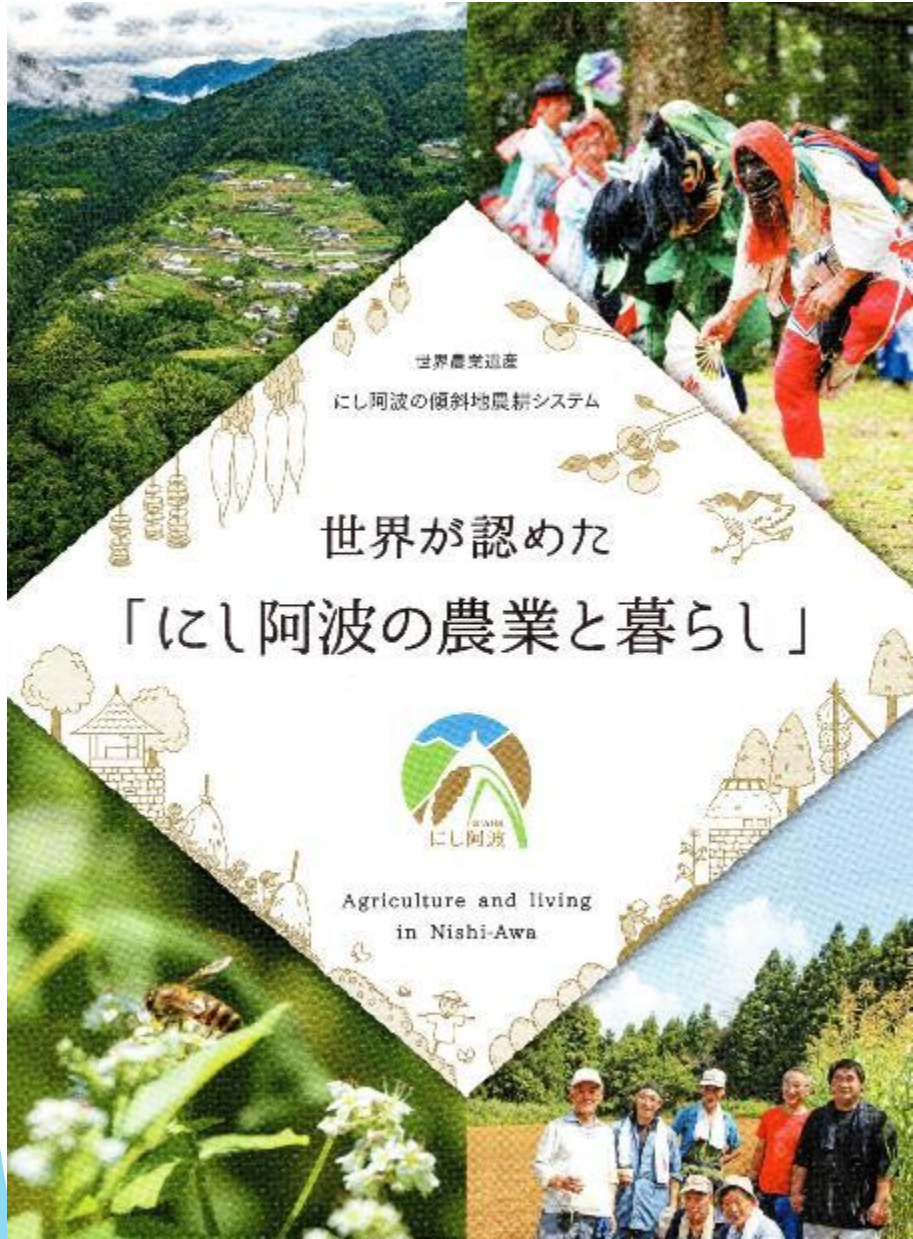
★つるぎ町貞光の家賀集落

★家賀集落の説明②

- 忌部神社別当「西福寺」
- 忌部の正統を祀る「児宮神社」
- 家賀城跡など



つるぎ町貞光の家賀集落



世界農業遺産
にし阿波の傾斜地農耕システム

世界が認めた 「にし阿波の農業と暮らし」



Agriculture and living
in Nishi-Awa

にし阿波の傾斜地農耕システムとは、



「にし阿波」と呼ばれる高気圧圏部の地域で、二軒づつを築き、東より西には、標高100から900メートルの山岳地帯に200歩の急峻な斜面に、いすも急な傾斜地に自給し、傾斜によっては傾度40度にもおよぶが、斜面を転がる農業では、坂の面のように下りたてを安定させることが一般的ですが、これお斜面では傾斜のなまは傾斜を打ってききました、そのために、独自の技

を伝承を承けて、自然を守り、土壌を守り、環境を守ってきただけです。この20年以上にわたり継承されてきた「傾斜地農耕システム」は、そして農耕によっての持続可能な農業の全てが「傾斜地農耕システム」です。
このシステムは、本来に受けとられた伝統的なものと認められ、食と農の持続的発展や生態系の持続など世界が認識する取組機会にもつながるものと評価されています。

斜めの美

美しい山々と深い渓谷が絶景な斜面には、食糧と暮らしの両方に最適で、自然環境も大切に守られています。



★2018年3月10日にFAO（世界食糧農業機関）GIAHS（世界農業遺産）に認定



林博章氏



天空（ソラ）の藍栽培への挑戦

藍栽培のメリット



- 1 藍栽培が成功すれば、にし阿波の「世界農業遺産ブランド」の認証を受けることができます。

② 化学肥料や農薬を使用しないので、土壌を傷めず、環境にも優しく、藍を安心して衣料や食材に使用することができる。いわゆる世界標準の藍が栽培



③ 藍は獣害が少ないので、柵を作らず安心して栽培することができます。

④ V字型溪谷の上昇気流と霧の効果で、水を撒かなくても栽培できます。など。



農作業①等高線に沿って畝を作る



農作業②肥料となるカヤ場（採草地）のカヤを刈る



農作業③コエグロ作り（剣山系の伝統農業のシンボル）



農作業④藍苗の定植作業



農作業⑤カヤと落葉を敷き詰める作業



農作業⑤藍葉の刈り取り作業



家賀の藍粉

家賀の藍粉



藍は古来より薬草として食用され、
近年の研究により藍の成分が見直されています。

■ 主に含まれる栄養成分

- ・ カフェ酸・フラボノイド・トリプタンスリン
- ・ ケンペロール・グルクロニド・ケルセチン

など体の酸化を予防する作用や免疫力を高める作用、肥満、脂質代謝異常症、糖尿病などの生活習慣病を予防、改善する作用などを持つ栄養成分が豊富に含まれています。血圧、血糖値、コレステロールが気になる方、風邪をひきやすい、虚弱体質、免疫力の低下が気になる方、シミ・シワなどお肌の老化が気になる方におススメしたい食材です。

藍入り半田手延べそうめん



藍を入れた商品開発(藍団子)



藍の商品化（ゆずりっ藍）



藍の商品化（藍ビール）



日本の桃源郷からの贈り物

家賀藍ビール

KEKA INDIGO BEER
A Gift From Japan Paradise On Earth

徳島県つるぎ町の標高500m超の高地にて、家賀（けか）再生プロジェクトが世界農業遺産／傾斜地農耕システムを活用して無農薬・無施肥で栽培した藍を使用。畑に刈り取った茎や落ち葉を敷き詰め、化学肥料も農薬も使わない昔ながらの方法で育てられています。この1本は欧州の農家のクラフトビールをベースに、食用藍の粉末を加えました。トロピカルな味わいと藍の風味が特徴です。藍粉は沈殿している可能性があります。最後の1滴までぜひお楽しみください。

品目：発泡酒 保存方法：要冷蔵 麦芽使用比率：50%以上
原材料名：麦芽（オーストラリア製造）、ホップ製造、ホップ、糖粉（徳島県産）、カラキチン、内容量：330ml、アルコール分：5.5%
製造者（株）ハトルリユウ 徳島県美波市穴吹町口山字宮内51番1
※飲用は20歳以上から
賞味期限：

藍の商品化（藍チョコレート）



藍の商品化（藍晩茶）



地域を創る

四国を拓く

藍作通じ集落に活気

2022年(令和4年)2月3日 四国新聞

徳島県つるぎ町
家賀再生プロジェクト

徳島つるぎ町の中山間地、舊島岡つるぎ町日光の集落地区にある耕作放棄地で、耕作に取り組み始める。名称は「家賀再生プロジェクト」。

2018年3月、板谷京子さん(71)と町員日光大須賀一(70)の呼びかけで発足した。

板谷さんは町中心部に暮らす。家賀地区には夫の出身地、農祭りなどで訪れるたび、過疎化が進む集落に寂しい思いを抱いていた。地域を巡り歴史や文化を知ろうと、「ここにもっと人の動きを呼びたい」と思い立つ。集落市の系図上、島川(旧林田さん)や地元住民の協力を得て、集落で町和初期まで盛んなた藍栽培に乗り出した。

家賀再生プロジェクト 徳島県つるぎ町

家賀地区のよさを県内・近畿の中山間地は傾度20〜40度の傾斜地で、段々畑の上まに水平に利用はせず、斜面のまま農作物を育てる。「じ」阿波の傾斜地農耕システム」として世界農業遺産に認定されているこの農法の継承を目指したが、主要メンバーは農業経験がないばかり。そのため、昔は傾斜地で農業を営んでいた地域住民の元へ通って農法を学んだ。次第に住民との交流も深まったという。

傾斜地に作った畑には、霧の発生する十分な水分が与えられ、土の流出防止に敷いたカヤが保水や肥料の役割を果たす。化学肥料や農薬を使わずに育てる藍は、食用粉末の藍粉に加工



傾斜地に作った畑で、栽培中の藍について説明する板谷さん(左)と徳島つるぎ町員日光大須賀一(右)。

四国新聞

徳島新聞

愛媛新聞

高知新聞

して販売する。ハーブの種と輸入リョコローよな風味が特徴で、特上を作るなら有機的な藍粉の半田そうめんや和菓子に使われるほか、藍粉の存在を知った大阪の会社がシンガポールのチャョコレートブランドで、県内外の大学を志す。

現地ガイドと共に地域を巡る観光ツアーも開催。県内外の大学を志す。

メンバーの一員で、夫が家賀地区田舎の古民家住さん(69)は「藍元の人からすればたのしみでも、この地帯の気候や風土を無視して入られる人がいて良さを理解できなかった。外から魅力を感じた人が来なければならぬ」と話す。

藍は山地区への移住相談を受けると、つるぎ町から移住した。板谷さんは「家族と移住希望者をつなぐ人の動きが大事です。移住は町の近くにサロンを開いて、訪れた人も



【つるぎ】家賀再生プロジェクトは、町員日光大須賀一(70)と板谷京子(71)の呼びかけで発足した。板谷さんは町中心部に暮らす。家賀地区には夫の出身地、農祭りなどで訪れるたび、過疎化が進む集落に寂しい思いを抱いていた。地域を巡り歴史や文化を知ろうと、「ここにもっと人の動きを呼びたい」と思い立つ。集落市の系図上、島川(旧林田さん)や地元住民の協力を得て、集落で町和初期まで盛んなた藍栽培に乗り出した。

藍の栽培加工で集落活性

徳島の女性ら 伝統農法継承も

いづれもプロジェクトの目的は、集落に呼び込まれる藍栽培。土壌にも育つた。プロジェクトの人々も育つた。藍栽培の歴史は古く、島川(旧林田さん)や地元住民の協力を得て、集落で町和初期まで盛んなた藍栽培に乗り出した。

傾斜地に作った畑には、霧の発生する十分な水分が与えられ、土の流出防止に敷いたカヤが保水や肥料の役割を果たす。化学肥料や農薬を使わずに育てる藍は、食用粉末の藍粉に加工

徳島つるぎ町の中山間地、舊島岡つるぎ町日光の集落地区にある耕作放棄地で、耕作に取り組み始める。名称は「家賀再生プロジェクト」。

2018年3月、板谷京子さん(71)と町員日光大須賀一(70)の呼びかけで発足した。

板谷さんは町中心部に暮らす。家賀地区には夫の出身地、農祭りなどで訪れるたび、過疎化が進む集落に寂しい思いを抱いていた。地域を巡り歴史や文化を知ろうと、「ここにもっと人の動きを呼びたい」と思い立つ。集落市の系図上、島川(旧林田さん)や地元住民の協力を得て、集落で町和初期まで盛んなた藍栽培に乗り出した。



家賀再生プロジェクトに参る板谷京子さん。

令和3年(2021年)9月10日 金曜日 文化

藍は集落の誇り

徳島にし阿波の傾斜地集落へ

徳島にし阿波の傾斜地集落へ

徳島にし阿波の傾斜地集落へ

伝統農法を未来へ

町民で代表者の板谷さん プロジェクト立ち上げ 栽培加工で活性化図る

徳島にし阿波の傾斜地集落へ

徳島にし阿波の傾斜地集落へ

徳島にし阿波の傾斜地集落へ



文化

徳島にし阿波の傾斜地集落へ

徳島にし阿波の傾斜地集落へ

徳島にし阿波の傾斜地集落へ

藍の生葉染め体験とツアーの実施



ボランティアで看板の設置



家賀の案内ガイド。感動を与える石田修さん。



外国人の視察にも対応（写真はイギリスから）

農福連携事業 「認知症の方と家族の会」



他の集落でも藍栽培が広がる（つるぎ町貞光の吉良集落）



● 「まちづくりファクトリー」の開催 徳島大学・地元つるぎ高校・商工会との連携事業

業



県外の企業研修・視察の受け入れ



家賀の藍を徳島の小中高の教育活動に





伝統行事の復活（箱回しによる三番叟）



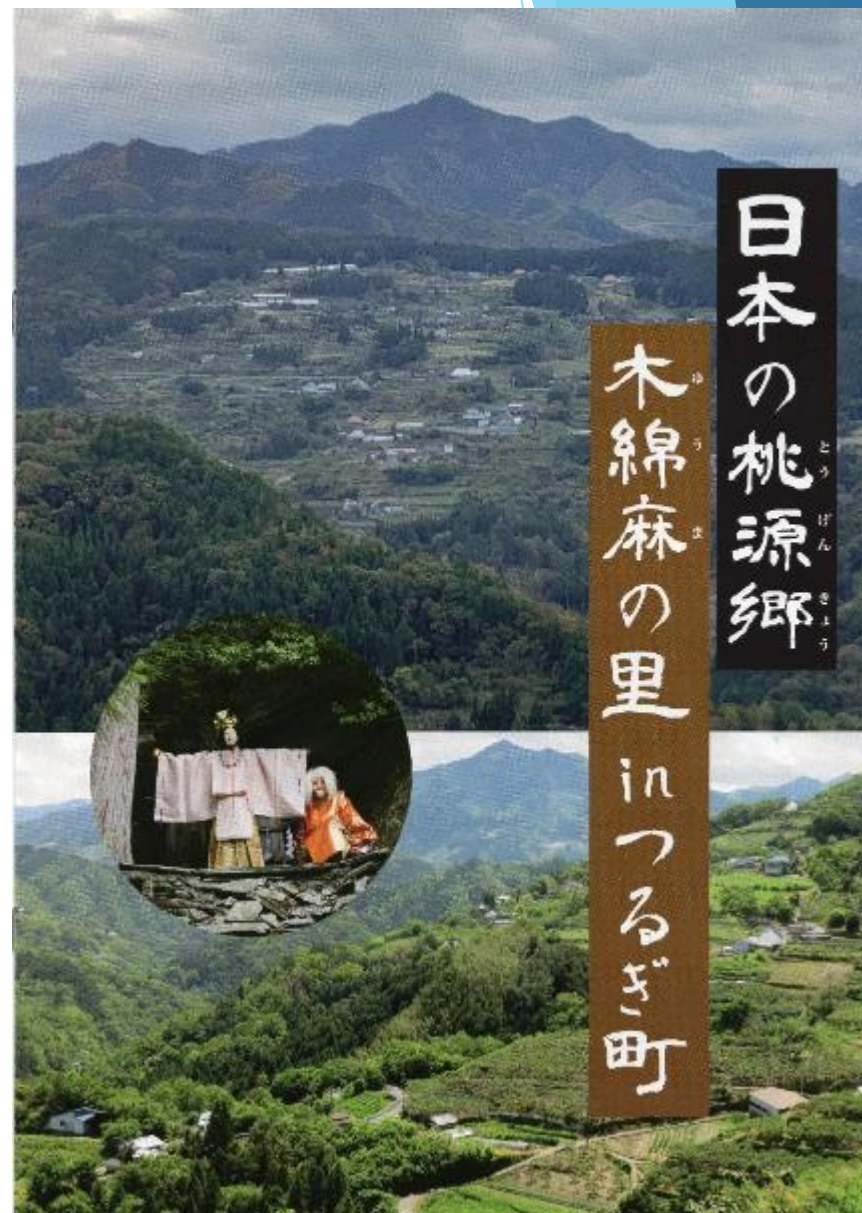
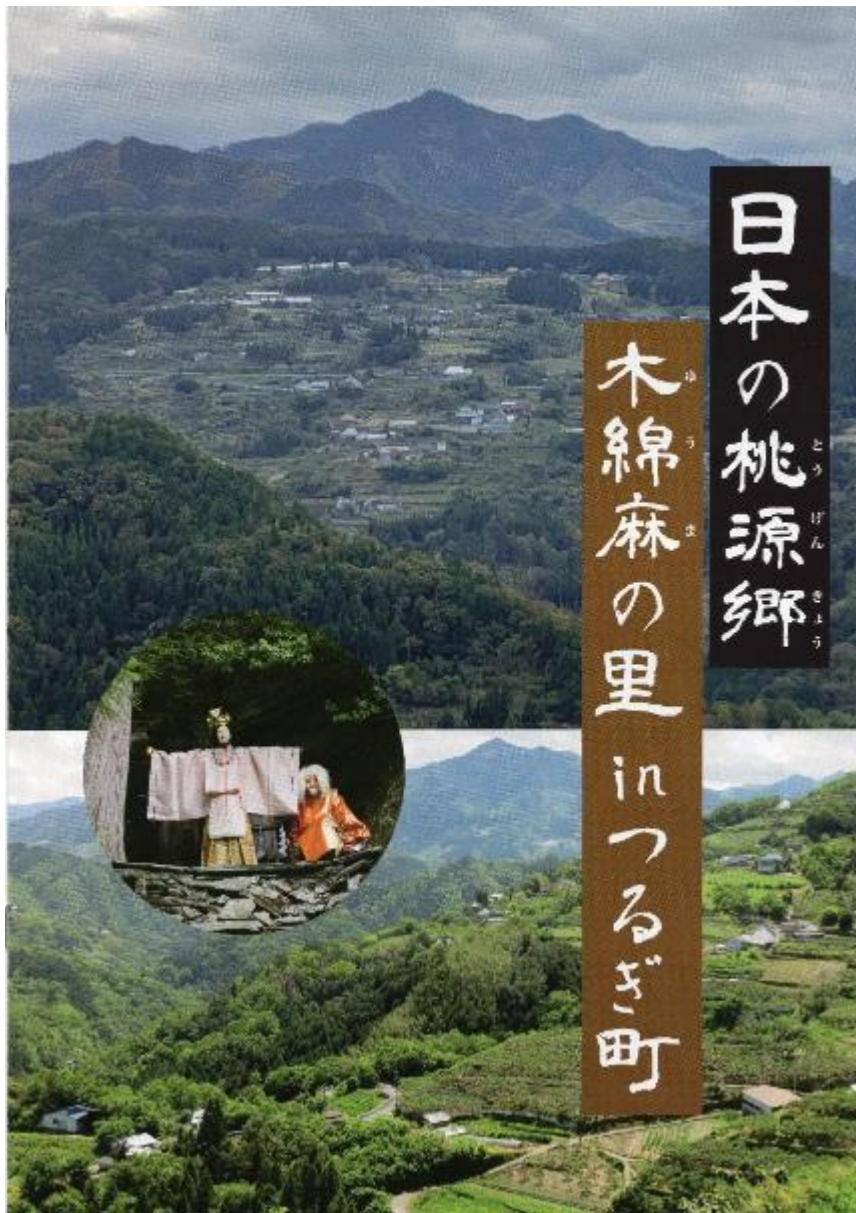
4月の豊穰祈願祭。

日本遺産大使・世界的な能楽師
大鼓の大倉正之助さん



豊穰祈願祭に地元・木綿麻太鼓が20年ぶりに復活

観光パンフレットの発行





広島市で開催されたG7の会場の一つ。
「ヒルトン広島」で**藍コンクリート作品**の展示



家賀に県内外の企業が農園を開設
株式会社「さわ」、ANA、エスビー食品

徳島集落再生表彰「優秀賞」を受



家賀に中高の修学旅行生を受け入れ



来春に「忌部文化研究所」が宿泊施設を建設 家賀再生プロジェクトは次のステージへ移行



皆さま、家賀集落でお待ちしています。

